

様式3 **令和6年度 小金井市立緑小学校 自己評価まとめ**

学校教育目標 人間尊重の尊重の精神を陶冶し、知・情・意・体 の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指す。
 ○たかましい子ども ○すすんでする子ども ○たすけあう子ども ○かながえる子ども

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 ○学び合い、支え合い、高め合う 緑小
【目指す児童・生徒像】 ○相互に学び合い、自他の良さを認め合う児童の育成
【目指す教師像】 ○授業で勝負するプロフェッショナルとして、授業力向上を目指す教師 ○子供の心に向き合い、使命感をもって根気強く指導に取り組む教師
 ○組織、社会の一員として、自ら課題を見出し積極的に職務を遂行する教師 ○保護者や地域と連携し、教育活動に対する理解・協力を得る教師

前年度までの学校経営上の成果と課題
 小金井市のコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が協働し、外部人材を活用した学習や児童の放課後の活動を充実させることができた。また、「すすんで考え、関わり合いの中で学びを深めていく児童の育成～児童の実態に即した協働的な学びを通して～」というテーマで校内研究に取り組み、協働学習を充実させることができた。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
授業変革の推進	児童が、協働学習に向けて積極的に取り組むよう授業展開を工夫し、児童のコミュニケーション能力の向上を図る。	4	4	クロームブックを活用して調べ学習をしたり、「スクールタクト」を使って個人個人のまとめを行ったりする等、ICT機器を有効に使って、総合的な学習の時間や国語、社会を中心に、協働学習を充実させることができています。今後も、児童同士で話し合いながら学びを深めていくような学習に力を入れていく。	4	4	発達段階に応じてクロームブックを活用したり、ペアやグループによる対話を重視した学習をすることで、児童が積極的に協働学習に取り組むようになってきた。クロームブックを活用することで、児童の表現の幅が広がったので、児童同士の交流を通して学習を深められるようにしていくことが今後の課題である。
	全教員が「ICTを活用した協働的な学習」を実施し、児童にとって分かりやすく楽しい授業を展開する。	3	4	校内研究で、ここまで3回の研究授業を行い、「スクールタクト」や「コラボノート」を活用した協働学習が充実しつつある。学習の中で、クロームブックを使用する機会が増え、児童も操作にかなり慣れてきている。文字入力や操作のスキルの関係で、低学年の使用率が低い傾向にあるので、低学年での活用が進むよう改善を図っていく。	3	4	児童それぞれが作成したものを見合うことができる閲覧機能や一つのワークシートに複数書き込みのできる共同編集機能等を、学習内容に応じて使い分けながら、協働的な学習を充実させることができた。ICT機器を活用しながら、子供たちにとって分かりやすく、楽しい授業を展開できるよう、今後もさらなるICT機器の活用方法を考えていく必要がある。
子どもの権利の尊	児童の hands-on となるように、教職員が積極的にあいさつを行うとともに、児童の主体的なあいさつ運動を充実させる。	3	4	教員は、児童に対して登下校時を中心にあいさつを行ってきた。また、生活のめあてを軸にしなが、様々な形であいさつ等に関する学級指導を行ってきた。教師や友達に対して、積極的にあいさつができるよう、あいさつ運動を充実させていく。	3	4	「人権スローガンひまわり」を軸にして、あいさつ運動に取り組んだ結果、自主的にあいさつをする子供たちが増えてきた。地域の方からも「緑小の子は、しっかりあいさつをしている。」との御意見をいただいた。今後は、校内において教職員に対して自主的にあいさつができるように指導を継続していく必要がある。
	学期に1回のアンケートを実施して実態をつかむとともに、ふれ合い月間を中心全校でいじめ撲滅への取組を行う。	4	4	ふれあい月間のいじめアンケートやWebQUの結果等をもとに、丁寧に児童対応を行ってきた。また、6月にいじめ防止研修を行い、職員がいじめ防止に対する意識の向上を図った。いじめアンケートや1学期末に行う学校生活の振り返りアンケートでは、児童のいじめに関する肯定的な評価がいずれも90%を超えているが、100%を目指して今後もいじめ防止に努めていく。	4	4	全クラスでWebQUを行い、その結果を児童理解や学級経営に生かすことができた。また、各学期に行ういじめアンケートを基に、児童に丁寧に聞き取りを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めることができた。児童アンケートの結果を見ると、楽しい学校生活を送れている児童が多いことが分かるが、いじめ0を目指して、今後もいじめ撲滅の取組に力を入れていく。
地域連携の推進	外部人材との円滑な調整を図り、学習支援を充実させる。	3	4	体力テストのボランティア、学校ボランティア等、外部人材に協力を得ながら学習支援を行っている。地域コーディネーターと連携しながら、校外学習の見守り等で、保護者や地域の方に御協力をいただいている。今後も計画的に外部人材を活用した学習を実施していく。	3	4	学校ボランティア等の外部人材に協力を得ながら、学区域内の校外学習の引率をしてもらったり、家庭科の学習補助をってもらったりすることができた。2学期以降は、ゲストティーチャーによる授業も多く実施され、子供たちにとって充実した学習の機会を得られた。今後も、外部人材を活用した学習ができるよう、計画的に実施していく。
	地域学校協働本部の地域コーディネーターと連携して、校内の環境整備活動や児童の放課後の活動を充実させる。	4	4	ウサギのお世話、図書室の環境整備等で、ボランティアを募って行っている。また、「みどりのほしかご」の活動を約90回行い、延べ約10000人の児童の参加があった。「ほしかごスタディールーム」に参加している学生ボランティアの人数を充実させ、子供たちにとって、よりよい学習環境づくりをしていく。	4	3	地域学校協働本部の地域コーディネーターと連携して学校ボランティアを募集し、授業の学習補助として活動してもらうことができた。放課後子ども教室においては、「みどりのほしかご」や「ほしかごスタディールーム」等に参加する児童がとても多く、充実した活動となった。今後も、地域学校協働本部との連携を密にしていく。
特色ある学校づくり	体力向上のための方策を体育的行事委員会でまとめ、全校で共通の実践を行う。	2	4	体力向上のためには、全校で共通した実践を行う必要がある。熱中症対策に十分に配慮して安全に水泳指導を行ったことは、大きな成果であった。今後は、縄跳びや持久走等、冬の体力作り力を入れていく。	2	4	持久走月間やなわとび月間の朝の取組を行い、学校全体で子供たちの体力向上を目的として体力向上部を中心に実施した。児童アンケートでも「体育の授業を楽しく行い、体力を付けた」という設問の肯定的評価が90%以上と高評価だった。体力テストのソフトボール投げの数値が例年低い傾向にあるので、改善を図っていく。
	家庭や地域と連携しながら、児童の規則正しい生活に対する意識を向上させる。	1	3	児童の規則正しい生活については、各学級で指導しているが、家庭の協力がなく難しい面がある。児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣ができていているという肯定的な回答が多い。引き続き、家庭と連携しながら、児童の規則正しい生活に対する意識を向上させていく必要がある。	1	3	保健だより等を通じて、家庭生活で気を付けてもらいたいことを保護者と情報共有し、子供たちの健康的な生活の促進につなげることができた。家庭での生活においては、各家庭の状況に応じて個人差があるので、無理のない範囲で子供にとって健康的な生活を送ることができるように、今後も保護者に呼び掛けていく必要がある。
	各学年の発達段階に応じた環境教育を実践し、児童自ら考え実践しようとする意識を高める。	1	4	児童自らが自分のできる環境を守るための取組として、令和4年度から「ハチドリプロジェクト」が実施された。高学年を中心に総合的な学習の時間などで取り上げている途中なので、まだ課題が多く残る。今後、学校全体としての取組み方を検討する必要がある。	1	4	低学年では、自然を大切に活動やごみの削減を考える活動に取り組んだ。中学年は、環境教育や障害者に関する教育に取り組んだ。高学年は、防災教育や食品ロスの問題、環境教育に取り組んだ。今後も、具体的にどのようなことが「ハチドリプロジェクト」につながるのか、学年や学校全体で共通理解しながら実践していく必要がある。
	ホームページの充実を図るために、3日に1回は更新を行う。	1	4	トップ画面の「学校の様子」の更新を17回、コミュニティ・スクールのページの「お知らせ」の更新を15回行った。平均すると、月に6回更新したことになる。更新回数が少ないので、コンスタントに更新をしていく必要がある。	3	4	9月以降も、「学校の様子」や「コミュニティ・スクール」のページの更新が十分にできなかった。保護者アンケートの「学校は、学校公開・保護者会・たより・行事などを通して、子供たちの様子を分かりやすく伝えている」という設問では、90%以上の保護者が肯定的な回答をしているが、学校の様子等を保護者に伝えるためには、ホームページでの情報発信回数をもっと増やす必要があった。